

摘 録

会 議 名 令和4年度第5回刈谷市文化財保護審議会
日 時 令和5年1月26日(木) 午前11時00分～正午
場 所 刈谷市北部生涯学習センター201研修室
出 席 者 委員：山田孝、鈴木達夫、松原啓治、渡部貫道、真島聖子、川崎みどり(敬称略)
事務局：鷹羽和久(文化観光課長)、田代英徳(歴史博物館長)、鶴飼堅証(歴史博物館専門員)、永井優香子(歴史博物館学芸員)、野村啓輔(歴史博物館学芸員)

内 容

1 あいさつ

2 議題

(1) 市史跡の指定及び解除について【非公開】

(2) 市指定史跡「土井家廟所」の現状変更について

(事務局) 土井家廟所の環境整備について、現地調査を行った結果、傾いている内堀を撤去すると、門全体が倒壊する恐れがあることが判明した。また、外堀の屋根の一部が陥没しているため、応急処置を行いたいと事業内容の変更連絡があった。急を要する整備であり、補助申請額に変更がないため、変更後の事業内容で整備を進めたいがどうか。

(A 委員) 内堀の鉄骨支柱は後ろ側を支えるのか。

(事務局) 前後両側から補強する予定。

(B 委員) 外堀屋根の陥没部分はどうか修復するか。

(事務局) 瓦を外して下地を修復し、瓦を葺きなおす方法で行う。

(C 委員) 変更後の事業内容で整備を進めて良いか。《委員了承》

(3) 県内研修の振り返り

(A 委員) 予想以上に古窯の保存が難しいことを感じた。

(B 委員) 今回が一番身近な研修であった。刈谷でどう保存・活用するかが難しい。

(C 委員) 維持・管理と活用を行い、見に来てくれる人を作ることが大切だと感じた。

(D 委員) 実際に見ることができたのが良かった。遠くとの繋がりのある古窯なので、広い視野で地域一帯となって活用・保存していけたら良い。

(E 委員) 古窯が多くあることを再認識した。維持・管理の大変さを感じた。

(F 委員) 近年、観光と史跡を結びつける傾向がある。博物館でもそういった取り組みが行われているが、観光に偏ってしまうと問題も出てくる。一方で人も集める必要もあるため、これについても検討していく必要が出てくる。

(4) 文化財防火デーの振り返り

(A 委員) 普段の火事だけでなく、文化財の火事についても話していただき、消防署の方にもメリットがあったと思う。そこに文化財があるということを繰り返し伝えていくためにも継続していく必要がある。

(B 委員) 消防団員の中に愛教大の学生が参加しており、消火訓練で聞いた話や経験を、将来先生になった時に、伝えてくれれば良いと思う。

(C 委員) 地元の人が集まって、文化財があることを知れることが大きいと思う。

(D 委員) 地域の文化財を地域の人で守っていくという意識が大切だと思う。

(E 委員) 地域の人に参加することが大事だと感じた。

(F 委員) 井ヶ谷の組長や班長など、より多くの人を集めることができれば良かった。

3 事務連絡

(1) 次回日程について

3月17日(金) 午前10時より、刈谷市歴史博物館にて開催予定。

以上